

いきいきライフ

ラジオ講座テキスト

毎週日曜日 6:30～ 7:00 放送
 毎週土曜日 17:15～17:45 再放送
 FBCラジオ 嶺北 864kHz / FM 94.6MHz
 嶺南 1557kHz / FM 93.6MHz
 パソコン・スマートフォンから radiko や FBC-i で聴くこともできます。



三方五湖レインボーライン山頂公園

令和五年五月

もくじ

学び強化月間 シリーズ①
 人生100年時代
 福井での生き方を考えよう

●五月七日放送（第六回）

本と暮らし生活と地域文化の厚み …… 2

南越書屋 主宰 nekongenejo 代表

清水 英明

●五月十四日放送（第七回）

「土生土帰どせいどきへ」と循環再生 …… 4

編集ランナー・執筆者 千葉 亮

●五月二十一日放送（第九回）

タイとの架け橋になりたい

私の第二の故郷ふくいく …… 6

ふくい外国人介護職員支援センター

通訳 八木澤 環 輝

●五月二十八日放送（第九回）

ブリリアントハートミュージアムに寄せて …… 9

アートディレクター 戸田 正 寿

●感想文のコーナー …… 11

●文芸欄 …… 15

■五月七日放送（第八回）

本と暮らす生活と地域文化の厚み

南越書屋 主宰

mekong.ne.jp 代表

清水 英明

私は昔から食事よりも本が好きで、本があったから生きてこれ、本が無ければ暮らしていけないと思っていたので、自分の本との関わりと今後の本との暮らし、本が与える地域文化について述べたいと思います。

◇福井で過ごした幼少期と本との関わり

田舎に生まれ育ちながらも、時空をいとも簡単に超え、いろんな知識経験に触れることができる書籍の存在や文字出版文化の有難さや、本と一生涯親しんでこられたことが自分の大きな支えであり財産となっていることを強く感じています。小学校の図書室が私にとっては誰にも邪魔されずに一人静かになれる良い場所でした。書籍についても、



今ではすっかりスマホで代用することが多いですが、百科事典、辞典、地図、時刻表なども大好きでした。町の小さな暗い店内の本屋も、街中に根付いた文化の香り漂う、さまざま年代の

人が本との出会いを楽しんでいる空間でした。

◇東京 ～大学・社会人時代～

上京後、幼少期から教育や福祉に関心があったので、大学時代は読書会の活動に誘われ、その時に初めて、さまざまな社会問題に関するルポルタージュといった本があることを知りました。また総合商社に就職し、仕事に忙しく、読書量は大きく減ったものの、仕事で出かけていた中国でお見かけた作家の山崎豊子さんや伴野朗さんなど、著名な作家の方々の凄さを感じることができました。

◇アジアへの関心が高まり編集の世界に

東南アジアのタイ駐在期間中に、アジアのことをもっと知りたい、深く関わっている人たちが、同じようなことに関心を持つ人たちとつながりたいという思いが強まり、タイで40歳を前に出版メディアの世界に転職。作家・研究者や、小さな専門出版社の情熱に触れることができ、ますます本を大事にし、本からしっかり学んでいきたい、またそのような著者、作家、作品を紹介したり、有機的に繋げて活用したいという気持ちが高まり、その後、仕事は変わりながら仕事を昨年退いた今でも、その思いは変わりません。

◇「あすは何を読もうかな」

本と暮らす生活について、昨年春、福井でとても印象深い新聞記事を目にしました。昨年3月、長引くコロナ禍の

生活で気が滅入っていた時、鯖江市の斎藤幸子さんという90歳の方が福井新聞に「あすは何を読もうかな」という文章を投稿されていました。私は60代半ばで「口ナ禍での無為の日々を過ごしているときに、90歳という年齢でありながら地方の福井で文学本をいまだに読むことに前向きで、みずみずしい感性を保ち続けておられる様子にとっても感動しました。

◇「南越書屋」での今後の活動

自宅敷地の納屋を整理して、情報発信や理解交流の場として「南越書屋」という活動の場を準備中ですが、その活動の一環として、すでに、「南越三余塾」として、本をベースとした無料学習会の活動も福井市内で定期的に始められています。ちなみに、「書屋」は、本屋でもライブラリーでもなく、アーカイブの意味で使っていて、中国の作家・魯迅が故郷で幼少学んだ「三味書屋」を意識しています。

◇「越」的思考と「土地の記憶」

一方で、福井県出身なので昔から「越」という言葉に惹かれ、「超ええ」という言葉との違いを感じ、越え方・越える方向を意識してきました。海を越えたアジアの交流や時を越えた古代からの歴史に関心を持つことにもつながります。アジアの地域を見てきたことで、もう一度多様な視点を持つことができ、日本や福井を見るようになりました。また、自分にとっての「土地の記憶」を、広く先人の記憶も含め、忘れ去らないようにしたいという思いも強いです。

地域・生活が便利になることも良いけれど、自分の地域の土地の記憶や生活と文化の厚みを見つめ直して、大事にしていきたいという意識が強いです。地域の文化力や土壌が深まるようなことを発掘・再編集することも、行っていきたいと思えます。

◇「董遇三余」の時を考え直す

最後に「董遇三余」という言葉を強く意識していて、読書・勉強するのに時間がないことはなく、「冬」「夜」「雨」の三つの余りの時間があるという言葉です。福井はこれにぴったりの地域で、董遇三余に恵まれていると思います。今では車やインターネットが普及し、この三余の時の意味が変容していますが、今の時代に合わせた董遇三余をもう一度考え直して、意識的に読書・学びのための時間を作っていくことが大事だと考えています。

講師略歴……清水 英明（しみず ひであき）

1958年、福井県鯖江市生まれ。東京大学卒業後、伊藤忠商事でアジアの情報通信、メディア関連事業に携わる。タイでの出版メディア会社を経て、2000年に、音楽・放送メディアのスペースシャワーネットワークに入社し社長、会長を歴任。吉本興業ホールディングス副社長などを務め、22年5月に退任。東京と鯖江との2拠点生活しながら、ライフワークとするアジアの歴史文化や北陸の地域生活文化の発信に取り組む。

■五月十四日放送（第七回）

「土生土帰」^{どじよつどじき}と循環再生

編集ランナー・執筆家 千葉 亮

タイトルにある「土生土帰」は、土に生まれ土に帰るという意味を持つ造語です。数年前、越前町小曽原を巡る旅の冊子を制作した際に、小曽原で感じたイメージからこの言葉が生まれました。小曽原は、越前町の中でもとくに焼き物の歴史が古く、周辺の山あいには、古越前と呼ばれるものよりさらに昔の須恵器窯跡が数多く点在しています。そして今も良質な粘土を産出し、越前焼の作家さんたちが作陶に励み、また、越前瓦の産地としても知られる、土で生計を立ててきた歴史が色濃いところです。



小曽原には、かつて甕墓（かめばか）という珍しい墓がありました。それは大甕を伏せて墓標としたもので、焼き物に携わる家の者が亡くなると、遺骸を土葬して何年か後に甕を掘り出し、小さな甕に納めて大甕で覆ったものでした。現在は小曽原の隣の平等（たいら）集落の奥にのみ、わずかに残っています。余談ですが、写真家の土門拳が撮影し、遺作と

なったのが平等の甕墓でした。小曽原では姿を消しましたが、その面影を伺わせるものとして、集落内の県道3号線と4号線が交わる辻に、大甕の中に地蔵尊が祀られたものを見るができます。

こうした小曽原ならではの風景からも、土とともに生きてきた歴史が伺われると同時に、生と死を繋ぐ土の存在にも思いが至ります。全ての生き物は、元素が一時的に集合体になり、命が尽きれば、その結びつきがほめて土に戻ります。小曽原は、土が生と死を繋ぎ、再び生み出す循環再生の母体であるという、日頃は忘れがちなことを今一度認識させてくれた地でした。

その小曽原にある古い土蔵で、土を巡る物たちを見ていただくギャラリーを開いて、今年で3年目を迎えます。江戸時代に造られたその土蔵の屋根には、今では珍しい越前の赤瓦が葺かれています。かつて小曽原をはじめ越前で焼かれていた赤瓦は、北海道や東北にも運ばれており、北前船の重要な商材でした。一方、土蔵内の壁は、漆喰ではなく、農家の土蔵特有の荒壁と呼ばれる土壁のままになっています。土壁は竹を格子に組んだ小舞竹を下地にして、刻んだ藁すさを練り込んだ粘土を押し込んで造られています。昭和生まれの方には、土に藁すさを混ぜて足で練った経験をお持ちの方もいらっしゃるでしょう。

昔ながらの日本建築は、屋根も柱も壁も全て土からの産物で造られ、そうした部材の多くは再利用も可能です。例えば土壁は崩れてもそれを集めて練れば、再び壁の補修材

料になります。天然の材料を知恵と工夫と経験で多彩に使いこなし、日本人が連綿と続けてきた持続可能な暮らしが、そこに垣間見えてきます。

そうした意味も込めて、小曾原に設けたギャラリーの屋号は「土」という字と環境の「環」の字を用いて「とわや」と読ませています。「環」は、訓読みで「わ」「たまき」「めぐ（め）」という読み方をします。昨今、幼い子どもでも耳にして知っている環境という言葉について、改めて考えてみると、この熟語は丸い輪を指す「環」の文字と、何かと何かが接するところを意味する「境」の文字の組み合わせでできています。広義においては、周囲を取り巻くものを総じて環境と言いますが、漢字2文字の意味そのものに着目すると、閉じた輪の中を様々なモノが、ぐるぐると巡っているイメージが想起されます。食物連鎖と土中の微生物による循環と同じように、生物の命も、人が作ったモノの命もまた、土を再生母体として輪の中を巡り続けるのが、生物界本来のベストな状態と言えるでしょう。

持続可能な開発目標SDGsの指針が示されていますが、環境問題に関して言えば、文明の恩恵に浴しつつ今の暮らしに負荷なく実現するのは、本当に難しいことです。産業界のSDGs目標に向けた技術の進歩と、人間一人ひとりの意識が鍵を握ります。そうした中で、現代と比較すれば負荷の多かった時代の「土」が傍らにあった暮らしに思いを馳せてみるのも、意識転換の一助となるのではないでしょうか。最後に、人とモノの命が輪の中で永久運動するイ

メージでつくった詩で締め括らせていただきます。

土生土帰、それは土に生じ土に帰す自然の理
地球に生きとし生けるもの全て、命尽きれば
土に抱かれ元素に戻り、再び生まれくる時を待つ
また人が造り出す物たちも役目を終えれば
再び命を育む土となる

地上でも海底でも土は循環再生の揺かご
生を育み、死を抱き、生と死の環をつなぐ

使う物、食べる物は

本来自然に素材を得る土生土帰の産物

そうした土から生まれ帰りゆく物たちに逢いにゆこう

越前町の土生土帰たちには何があるのか

Aーの時代へ急加速する中で

太古から続く土生土帰の環はどうなるのか

目で確かめ、手で触れ、口で味わい

人と物の命が土を介して

時の環を巡る世界を感じてみたい

~~~~~  
講師略歴……千葉 亮（ちば りょう）

昭和32年、越前市生まれ。県立恐竜博物館ほか県内の博物館等施設の映像台本、企業案内、観光案内冊子等の企画・編集等に従事。土蔵ギャラリー「土環舎」主宰。第15回歴史浪漫文学賞創作部門優秀賞受賞、「小説白山平泉寺 白の聖都」執筆

## ■五月二十一日放送 (第九回)

タイとの架け橋になりたい  
私の第二の故郷「ふくい」

ふくい外国人介護職員支援センター

通訳

八木澤 環 輝

私の父は日本人、母はタイ人です。子供の頃から家族でよく旅行したことから旅行に強い興味を持ち、観光学が学べるタイの国立カセサート大学に入学、一年間の交換留学生プログラムで日本にきました。日本語や日本の文化を勉強し、いつか日本で働くという意思を持ちました。そして今、私はタイ人介護技能実習生の受入れを行う「ふくい外国人介護職員支援センター」で働いています。



「ふくい外国人介護職員支援センター」は、タイ側との折衝や制度の運用、円滑な実習のサポートなど、介護技能実習生を受入れる上で重要な役割を担う監理団体です。専門性やネットワークを有する県社協(福井市)に設置されています。2022年4月、タイ人介護技能実習生の受入れが始まり、私は通訳として貴重な機会をいただきました。

現在、福井県に来ているタイ人介護技能実習生は14人います。

年齢は22歳から27歳の女性です。彼女達は将来介護の仕事をするため、日本の介護技術や日本語、日本の文化を学んでいます。

私は日本の高齢者施設はとても素晴らしいと思います。タイではこうした施設が少なく訪問介護が一般的です。日本には介護保険制度があり、国民のためにも良い制度だと思えます。これから高齢社会に進むタイでは真剣に考えないといけない制度です。

タイは、世界の人々から「微笑みの国」として知られていて、「サイアムの微笑みの国」と呼ばれていました。タイ人は「微笑み」と「幸せ」を大切にします。しかしながら、タイ人介護技能実習生には、日本語の壁や、文化、価値観、生活の違いや意見の違い等、様々な課題があります。

また、日本語と福井弁の難しさに加えて、介護の専門用語もあります。こうした異なる言語を理解するのはとても困難であり克服することは簡単ではありません。

さらに、一年中暑い熱帯で育ったタイ人にとって、福井の雪や寒さは想像を絶する過酷なもの。ましてや生まれて初めての外国、雪国での生活と仕事です。そしてタイにはない春、夏、秋、冬と変わる四季に適応し身体が慣れるまでは大変な苦労だと思います。

彼女達にとって、母国と日本では、生活文化、価値観、気候等の違いがあり大変だと思いますが、今は人生で最も重要な時期です。日本で色々な体験をして楽しく意義のある時間を過ごしてほしいです。私は、日本でのお兄さんと

してサポートしていきます。

私が福井に来たのは2年前。福井の皆様にとっても温かく迎えていただき心より感謝しています。福井はとても自然が豊かで私が到着した時は運良く桜の花が満開でした。タイ人にとっては憧れの美しい桜に感動し、福井の人々の優しさに包まれ感激しました。そんな中、福井を代表する食べ物の一つ、「そば」を食べさせていただき、以来、大好物となりました。

タイから日本へは、飛行機で6時間かかります。タイのことを知らない福井の人には、「タイは東南アジアの北部に位置して、西はミャンマー、北はラオス、南はマレーシア、東はカンボジアと接しています」と説明しています。気候は熱帯なので一年中暑いのです。

タイの首都はバンコクです。タイの国名は「タイ」ですが、以前は「サイアム」と呼ばれていました。タイには様々な観光地があり、世界有数の観光国として知られています。タイの仏教寺院、美しい山や海、「タラート」と呼ぶ市場も観光客には大人気です。観光客に人気のタイ料理は、「トムヤムクン」「グリーン・カレー」「ガパオライス」等があります。

私とタイ人介護技能実習生は福井県から手厚い支援をいただいていることに心より感謝しています。そして自宅で育てられた新鮮な野菜や果物をいただいたり、料理をいた

だいたりし福井の人々の深い思いやりの心が、私たちタイ人にとって様々な困難を乗り越える元気の依りどころなのです。その温かく優しい心は、私の心の故郷となりました。さらにもう一つ、私が福井で大好きなものは、山と海に囲まれた豊かな大自然と雪や寒い冬もある四季です。冬の福井では、雪を見たり遊んだり食べたりすることが出来ます。そして、寒くて厳しい冬が過ぎると今度は若葉と様々な花が咲き乱れる景色を楽しむことが出来ます。春が過ぎたら車に乗って日本海の美しい海に行ったり泳いだり、新鮮な魚の刺身や焼き魚を食べに行ったりすることも出来ます。

私の生活は福井時間に変わりゆっくりと動いています。それは大都会バンコクの渋滞と忙しなさ、騒音と排気ガスだらけの道路とは対照的です。福井での時間は急がずにゆるやかに流れ簡素で静かです。住んでみたからわかった「福井の良さ」なのです。





最後になりますが、私は福井が大好きで心より愛しています。福井の人々、食べ物、自然、福井は私の第二の故郷。願いが叶うならば、福井県に永住したいです。



技能実習の様子

講師略歴……八木澤 環輝（もぎさわ たまき）

1994年生まれ、タイ、バンコク出身。ラムカムヘン大学デモン  
ストレーション高校、タイ国立カセサート大学観光学科（ホテル、観  
光ビジネスマネジメント等）卒業。2022年4月社会福祉法人福  
井県社会福祉協議会に「ふくい外国人介護職員支援センター」が設立、  
「通訳」として就職。現在、主にタイ国からの介護技能実習生の相談  
支援や通訳を行っている。



## ■五月二十八日放送（第九回）

## ブリリアントハートミュージアムに寄せて

アートディレクター 戸田正寿

■福井 三国 雄島 そこに世界でたったひとつ 時間に生命を感じることができません。ミュージアムがあります。

建坪135㎡、延床面積130㎡。10m×8mの空間に、不似合いなほどの4m×1.5mの大きな窓がひとつ。この美術館は、今まで誰も考えなかった世界にひとつの美術館であり、そのものが私の作品です。窓の外に見えるのは、地元では「神の島」と呼ばれ、千年を超えて斧を入られたことが無い深い森に覆われた雄島と日本海の波、そして空と雲。

でもこの窓の前に立ち感じられるのは、24時間、365

日、季節ごとにくらう光、風の音、雷の響、海鳴り、波の囁き、海鳥の鳴き声、虫の音、人々の気配……。およそ自然が私たち人間に与えてくれる生命の輝きのすべてが、とても清透な姿



と形で眼の前に拡がっているのです。

この窓は、美術館の空間に立つ人が、体全体、こころの全てで、そのことを感じとっていただくためのもの。どうぞ、大きな息をしながら、自然を知覚し、今日の音を聴いてください。

また、晴れた日の美術館では、私が考えたクリスタル「Seiriucatt」が太陽の光をとらえ、特別な光による虹のパラダイスをつくり出します。空間を覆うとりどりの虹は時間とともに変化を続け、朝靄から太陽が沈むまで、ここに立つ人へ物語を語りかけるのです。日が落ちれば、私が考案した時間によって壁自体が輝度を変え、この場にある自然のすべてを体感する人びとの五感を邪魔しない「ライトフェイス」という新しい概念の照明が灯りまです。そうした空間のなかで、5,000年前の縄文の土器の欠片500個を使った私の作品「5千年の顔」と対峙していただきます。そこには、自然と語りながらか時間が生命をもつということが感じられるはずです。朝、昼、夜。どうかゆくり、ここに居る時間を、その変化を楽しんで欲しい。ここは悠久の時間がつくる生命を感じられる空間なのですから。



■自然こそ最高の美であり、憧れであり、この世の作品です。私はふるさと福井の自然の美しさ、特に雄島に惹かれ、この手つかずの美しい輝きを多くの方に感じ取っていただきたいという思いから、この美術館を建てました。

福井には世界に誇れる宝物が他にもたくさんあります。それらの良さを大切にし、じっくりと時間をかけて、クリエイティブの力を発揮して、さらに素晴らしい宝物に創り上げてほしいと思います。私も生まれ育ったふるさとをもっともっとよくしようと思っています。

#### 講師略歴……戸田 正寿（ただ せいしゅ）

福井県生まれ。毎日現代展美術館賞、リュブリアナ国際版画ビエンナーレ、クラコフ国際版画ビエンナーレ美術館賞、ブルノ国際、ラハチポスタービエンナーレグラプリ受賞その他多数グラプリ金賞受賞。ニューヨーク近代美術館、ハンブルグ美術館その他30の美術館にパーマネントコレクションがある。

サントリー（ランボー ガウディ編）伊勢丹ロコモマークC1作成、森ビル六本木ヒルズ「村上隆」とのオープニングキャンペーン、黒沢明ドローイング展のプロデュース・アートディレクション（ニューヨーク 森美術館）、小堀遠州350年大遠偉記念展（MOMA美術館はじめアケ所で巡回展）、洞爺湖サミット会場総てのアートディレクション、その他多数。

# 感想文のコーナー

このコーナーは、受講生の皆様から寄せられた感想文を紹介いたします。紙面の都合上、すべての感想文を紹介できないことをご容赦ください。

## ■三月五日放送（第四十八回）

特殊詐欺とアテンション・エコノミー  
注意の誘導と詐欺

秋山 学 先生の感想文より

### ▼杉下 信夫（八十八番）

5年ほど前、息子になりました電話がありました。すぐ気づきましたが、内心ドキドキして対応していました。

一応、妻にも電話を替わってもらい、実体験してもらいました。妻は半信半疑だったようです。同じ男から翌日もかかってきたので、「あんたは、なにをしてほしいんや?」と問い詰めたら電話が切れました。

その後、ナンバーディスプレイと留守番電話機能の付いたものに買い替えました。登録してない番号には出ないようになっています。

また、最近あった事例では、ネット検索中に、「ここをクリック」という表示が出て、漫然とクリックしたら、突然切迫した大きな声でアナウンスが繰り返し流れて「ウイルスに感染した。今すぐ、表示した番号へ電話を」と促されました。焦ってしまって電話しようとしたら、妻が引きとめてくれて助かりました。翌日、専門店に相談したら、電話しなくて正解だったと言われました。今も正常に動いています。

### ▼酒井 匠（八十四番）

お金をだまし取る特殊詐欺や悪質商法の被害は新聞、テレビで被害の様子が報道されています。詐欺や悪質商法は私たちの注意を虜にし、虚構の世界に私達を引き込む手口です。

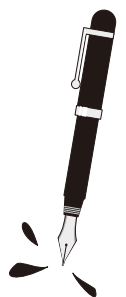
消費者の注意を引くことを競い合う社会になりました。広告であることを悟られないようにし、商品やサービスを利用した感想や経験談として広告が行われています。

特殊詐欺、悪質商法、広告等様々な手口に注意を奪われることのないよう、留守番電話、番号表示機能を活用し被害にあわないように生活していこうと思います。

### ▼松澤 甚三郎（三十八番）

今も減らない特殊詐欺では、預金口座の違法取引、息子や孫が犯罪や事故など恐怖喚起、今日中など時間的切迫警察の者だけといった権威などの心理的手段が用いられる。また国や自治体からの還付金という誰もが注目してしまう事を利用して騙そうと試み、虚構の世界に引き込む手口である。

インターネットなどで多様な情報が押し寄せる時代、全体に注意を払うことが困難。このため消費者の関心や注意を引くこと自体が価値あるものになり、関心や注目の都合





いが価値あるものになった。

これはアテンション・エコノミー（注意経済）と呼ばれ、近年急激に発達している。この事が注目されるのは、インターネットが普及し、パソコンやスマホを利用することによって、興味や関心を引こうとする試みが、常時、曝されるからである。その結果、スマホには興味や関心に適うメールがたくさん届き、SNSを見れば次々と広告が表示される。このようなことを通して消費者の注意を獲得しようと事業者は躍起になっている。特殊詐欺は、消費者の注意を引く試みを悪用して、違法な手段で注意を強引に引き寄せ、虚構の世界に囲い込み操り、お金をだまし取る行為である。騙されないという自信満々が危ない。大切なのは操られそうになった場合でも、一息入れて、注意を整えることが出来るよう、留守番電話を活用したり、電話の近くにカレンダーや時計を置き、何時、誰からの電話か記録する余裕を持ち、何時でも相談できるようしておくこと大切である。騙された人は注意し過ぎたからで、攻めないように。

■三月十二日放送（第四十九回）

60歳から読んでほしいあの本、この本

山上 昌彦 先生の感想文より

▼山場 太郎（四番）

生きていくために重要な知識を得るために本は欠くことのできないものである。今日の新聞の一面下段にも『歎異

抄をひらく』等16の本の名前が並んでいる。

人生100年時代を生き抜くために必要なのは仕事、健康、コミュニケーションである。

我が人生は99年目、健康寿命であり幸せなこと。コミュニケーション、情報の伝達には社会参加が大事であると思う。私の社会参加の経験は定年即、地区長の仕事が続いて会計、事務局を引き受けた。続いて市の高年大学のリーダーネーターとしてカリキュラムを作成した。

本日の講座で60歳からの大切なポイントの①②③はクリアしている。これまで入院したことがない。食事では咀嚼100回、時間をかけ実践中。テキストにある本を今後参考にした。

▼松村 政子（六十二番）

「出版は時代を映す鏡です」私もこの言葉に同感です。月刊雑誌（文芸春秋）を年間定期購読して読んでいます。今の世の中の動き、世間の様々な事が分かり学び知ることが出来ます。私には必要で大切な一冊です。

『年をとったら食べなさい』食べるのが好きな私、ぽっちゃり体型でいられることは嬉しいです。

60歳からの大切な3つのポイントの①生き方・仕事…考え方をしっかり持って生活していきたいです。②健康…毎週通院しているため医療、健康には関心があり大事です。体によいものをお願い献立メニューには気を付けています。運動も大切に転倒、骨折しないよう軽く足を動かしたり自

転車こぎをゆくりしたりしています。③コミュニケーション  
 ヨン：最近になってコミュニケーションの良さや大切さが  
 わかってきたようです。歩行が思うようにはかず外出もま  
 まなりませんが、人とのほんのわずかな触れ合いにも心通  
 うように心掛けています。

先生の貴重なお話、ありがとうございます。

#### ▼前川 嘉津子（二百十八番）

本は色々な世界に連れていってくれたり、知恵を授けて  
 くれたりします。私にはお勧めの本のどれもが必要と思え  
 るものです。書店に行くのとたくさんの本があり、自分で中々  
 選ぶことができない時があります。まずはご紹介の9冊に  
 優先順位をつけて全部読んでみたいと思います。

人生100年。先生のお話を聴いて、自分磨き、本を通  
 じてゆくり歩んでいきたいと思えます。

#### ■三月十九日放送（第五十回）

今、福井に恋をする

〜見つめなおす私たちの故郷〜

寺井 優介 先生の感想文より

#### ▼齋藤 優（二十一番）

私の孫娘は東京の大学を卒業したあと川崎市で働いてい  
 ますが四、五年したら福井へ戻って同じ仕事を続けたいと  
 言っているのを聞いて密かに喜んでいます。

私は生まれも育ちも県内の片田舎の静かな自然に恵まれ

た環境の中で生きてきました。こよなく故郷を愛し多くの  
 人たちと接し多くの経験をしてきました。福井県は素晴ら  
 しい。美味しい空気と食事、風光明媚な自然、今は県立恐  
 竜博物館が沸いています。

先生は「福井のよさは人にあり」と指摘されているよう  
 に控え目で目立たない心の奥深さはいつも熱い想いに燃え  
 ています。決意し実行する若者が起業する環境にも恵まれ  
 ています。このように秀でた土壌で立派な人材が埋もれて  
 います。

高齢化社会の今日、年老いた両親を実家に残して都会で  
 定年まで働いて戻ってきたときには惨めなものです。家庭  
 内の幸せは家族揃って日々の団欒を楽しむことができる  
 ことであり、日頃から地域社会の貢献にも役立つことがで  
 きます。

近年、県外の若い夫婦が福井に移住して空き家を活用  
 起業して張り切っている姿が目立ちます。大歓迎です。加  
 えてぜひとも福井県出身者が帰郷して魅力ある素晴らしい  
 福井県の更なる発展に寄与してほしい私達高齢者も心か  
 ら応援したいと思っています。先生のバイタリティあかれ  
 る思いに魅力と感動をいただきました。福井県の若者の活  
 動の応援隊の中心になって今後も一層のご尽力を願ってい  
 ます。

#### ▼大下 敏雄（二百二十九番）

寺井さんのお話を聞き、応援ディレクターという役職が

あることを初めて知った。県庁に県民活躍課なるものがあることにも驚いた。杉本県政の行動力だろうか。

私も就業時、出張で山口県に行って、宿泊先の近くのスナックで飲んでいた時、その30代のママさんが「東尋坊は石川県」と言ったのは驚いた。福井の知名度が低いこと、余りにも福井が知られていないことに情けなく思ったことがある。「福井らしさ」を福井の若者が発信することが大切だと感じた。

#### ■三月二十六日放送（第五十一回）

#### ローカル鉄道の未来と楽しみ方

蜂谷 あす美 先生の感想文より

#### ▼中山 慶子（二百六番）

鉄道旅はとても楽しいものです。私は飛行機や船の旅は怖く乗る機会がありません。もっぱら車が鉄道です。新幹線、特急、普通電車それぞれに特徴があり、乗る人も景色も車内も違います。主人との旅行は混雑を避け平日ばかりなため新幹線にはビジネスマンが多く、特急にはビジネスや旅行客など様々、普通電車には地元の方や時間によっては学生さんもあります。

普通電車で聞こえる話の中に、その土地の方言を聞くことができ「遠くに来たんだなあ」と感じることもあります。最近ほとんど乗っていませんが子どもを連れて石川県の実家に里帰りしていた頃は越美北線を利用していました。

どんな景色が分かっているても川を渡ったり、トンネルをくぐったり季節によって線路沿いの花々が楽しめたり。「乗って残そう」と言われていてもいつも車に乗っているため申し訳なく思っています。講座でお聞きした小浜線も楽しそうなので、嶺南に行く時に利用しようと思います。

#### ▼西尾 桂子（百七十七番）

私は、ローカル鉄道に乗るのが好きだが、先生の冒頭の話聞いて、そういう理由だったのかと今改めて思う。つまり、車内では自由に過ごせ、地元の人々の姿を近くに見ることができ、車窓の景色にうっとりとして（特に「夕暮れ」は、旅の情緒が感じられる）、「点ではなく線の旅」を楽しんでいるからなのである。

同じ県内でも、駅の中に「ごやさん」がある小浜線など、初めて聞くことも多かった。ローカル線だからこそ知る楽しみは、旅への思いを膨らませていく。

駅名を確認しながら乗っていくのも、小さな旅の楽しみの一つ。福武線の再改名「武生新」駅を、懐かしく聞いた。新幹線駅の事情ではあるが「武生新」が戻ってきたのは嬉しい。長年使っていた駅名にはよく乗る者ならではの郷愁がある。

他県の鉄道もじっくり乗ってみたい。コロナは収まりかけ、季節も好機だ。良い講座に感謝している。



文芸欄

俳句

立ちどまる事も前進五月来る  
やり残す事の数々薄書かな

前川 康子 (二百四番)

ドリトルの眼の少年蝌蚪抱む  
錆色のレコード針や山笑う

高石まゆみ (百六十五番)

青き踏む人生ゲームまだ途中  
限られし命忘れて花万朶

中山 慶子 (二百六番)

孫泊まる川の字眠る天使顔  
嫁やれぬ孫のひな壇片づけず

前川嘉津子 (二百十八番)



短歌

定年後趣味を楽しみ十年が

あつという間に過ぎてしまった

趣味のため片道十キロ自転車で

往復した日もある定年後

杉下 信夫 (八十八番)

川柳

雛まつり曾孫産まれて娘に感謝

こんぺい糖昔忍ばすミモザかな

谷川 好枝 (四番)

つれあいは受診のたびに薬かえ

横断に孫に渡るを教えられ

森忠 陽子 (二百三十一番)

テキスト4月号文芸欄川柳作品の作者名に誤りがありました。訂正してお詫び申し上げます。

(正) 齋藤 優 (誤) 森忠 陽子

発行所 福井県社会福祉協議会

〒910-0856 福井市光陽 1-3-11

FAX 電話 076-244-1433

令和5年度

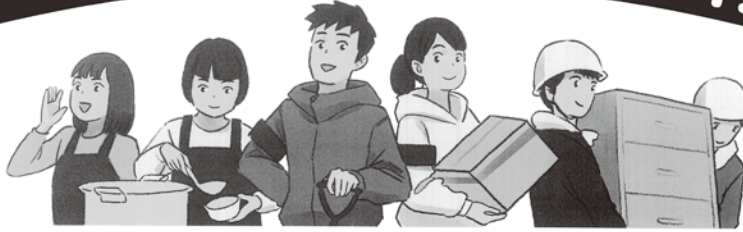
https://www.fukushihoken.co.jp

ふくしの保険

検索

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償

# ボランティア活動保険



保険金額・年間保険料 (1名あたり) 団体割引20%適用済 / 過去の損害率による割増適用

| 保険金の種類  |                   | プラン    | 基本プラン                             | 天災・地震補償プラン   | 特定感染症重点プラン |  |
|---------|-------------------|--------|-----------------------------------|--------------|------------|--|
| ケガの補償   | 死亡保険金             |        |                                   | 1,040万円      |            |  |
|         | 後遺障害保険金           |        |                                   | 1,040万円(限度額) |            |  |
|         | 入院保険金日額           |        |                                   | 6,500円       |            |  |
|         | 手術保険金             | 入院中の手術 |                                   |              | 65,000円    |  |
|         |                   | 外来の手術  |                                   |              | 32,500円    |  |
|         | 通院保険金日額           |        |                                   | 4,000円       |            |  |
|         | 特定感染症             |        | 補償開始日から10日以内は補償対象外 <sup>(*)</sup> |              | 初日から補償     |  |
| 賠償責任の補償 | 賠償責任保険金 (対人・対物共通) |        |                                   | 5億円(限度額)     |            |  |
|         | 年間保険料             |        | 350円                              | 500円         | 550円       |  |

商品パンフレットは  
コチラから



(ふくしの保険) ホームページ

\*3月末までに契約手続きが完了し、前年度から継続して契約される場合は初日から補償します。

### <重要>

- ◆ 基本プランでは地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。
- ◆ 特定感染症重点プランでは中途加入の場合でも補償開始日より特定感染症が補償対象となります。
- ◆ 年度途中でご加入される場合も上記の保険料となります。
- ◆ 中途脱退による保険料の返金はありません。
- ◆ 途中でボランティアの入替や、ご加入プランの変更はできません。
- ◆ ご加入は、お1人につきいずれかのプラン1口のみとなります。

**ボランティア行事用保険** (傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

**送迎サービス補償** (傷害保険)

**福祉サービス総合補償** (傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

● このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**

〈引受幹事 保険会社〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課

TEL: 03(3349)5137

受付時間: 平日の9:00~17:00 (土日・祝日、年末年始を除きます。)

この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F

TEL: 03(3581)4667

受付時間: 平日の9:30~17:30 (土日・祝日、年末年始を除きます。)

(SJJ2-12223より抜粋して作成)